

事業並び替え表

(現計画)旧体系等

(参考)達成状況調査結果

資料6

基本施策	基本施策1	具体的施策	具体的施策1	旧No.	旧初出	旧再掲	旧事業名	旧事業内容	旧計画期間中の取組内容	担当課	(参考)達成状況自己評価	(参考)達成状況現状	(参考)達成状況課題	(参考)達成状況コロナの影響
基本施策1	だれもが学び合える環境づくり	1-1	学びのきっかけづくり	28	基本施策2	-	市民スポーツ教室	スポーツ推進委員並びに府中市体育協会が中心になり、スポーツ実施率の向上を目的に幅広い年齢の市民を対象としたスポーツ教室を実施する。	ジュニアからシニアにわたるまで、市民がそれぞれのライフステージに合わせて活動できるスポーツ教室を開催することでスポーツ機会の拡充を図る。	スポーツタウン推進課	B:おおむね達成	小学生を対象にしたかけっこ教室を8月・3月の2回実施した。 また、令和6年度は小学生を対象にしたラリーテニス教室を8月に実施した。 16歳以上の市民を対象に「ルディックウォーキング体験講習会」を10月・3月の2回実施した。	市民ニーズを的確に把握し、既存の教室のあり方や新たな教室の実施について検討する必要がある。	x:影響を受けなかった
基本施策1	だれもが学び合える環境づくり	1-1	学びのきっかけづくり	14	基本施策1	-	郷土の森博物館展示会事業	長期休暇、梅まつりなどの時期に展示会を実施し、日頃、見ることのできない展示物に触れることにより、学習の幅を広げる。	多くの方に興味を持っていただける、魅力的な内容の企画展及び特別展を開催し、来館者数の増加につなげる。	ふるさと文化財課	A:達成できた	基本的に順調に推移、5年度6年度は博物館改修工事がありレギュラーな開催となったが、工事終了後は展示室が刷新され展示環境が改善されている。	毎年度2回程度の特別展、3回程度の企画展、その他小規模な展示会を実施するが、そのテーマ策定、長期計画、予算獲得等が課題である。	x:影響を受けなかった
基本施策1	だれもが学び合える環境づくり	1-1	学びのきっかけづくり	13	基本施策1	-	一般健康教室	生活習慣病、健康増進、健康に関する正しい知識の普及を目的に、講話、相談、試食、試飲などを実施する。	生活習慣病、健康増進、健康に関する正しい知識の普及を推進し、個人の取組にとどまらず地域全体でソーシャルキャピタルの醸成による健康づくりを目指す。	健康推進課	A:達成できた	令和4年度は、コロナの影響により集団での講座等を中止し、オンライン配信で開催した。令和5年度には会場とオンライン配信のハイブリッドで土曜日に実施。令和6年度には、会場の講演の後日オンデマンドでの配信を実施し、参加しやすい環境整備に努めた。なお、自主グループ活動については、継続的にサポートを行った。	若年層の参加が少ないため、参加しやすい環境整備等を工夫していく。また、ソーシャルキャピタルを醸成していくため、市で養成している元氣いっぱいサポーターリーダーの活躍の場について検討していく必要がある。	:大きく影響を受けた
基本施策1	だれもが学び合える環境づくり	1-1	学びのきっかけづくり	12	基本施策1	-	みんなのスポーツday	体育の日にちなみ、地域体育館を無料開放し、市民誰もがスポーツに親しめるイベントを実施する。	ラリーテニスやトランポリンなどのほか、地域体育館の特色をいかした取組を行う。	スポーツタウン推進課	B:おおむね達成	各地域体育館においてラリーテニスやトランポリン、ボッチャなどの体験を実施するとともに、特別企画として外語大のチアリーディングや府中西高校のダンスなどを実施した。	各地域体育館で協力者の数に差があり、人数が不足する館では協力者の負担が大きくなっている。	x:影響を受けなかった
基本施策1	だれもが学び合える環境づくり	1-1	学びのきっかけづくり	10	基本施策1	-	けやき寿学園	60歳以上を対象に、政治、経済、文化、芸術など多様なジャンルから、市民のニーズを捉えたプログラムを実施する。	対象者のニーズに合わせて、気軽に参加できる無料の講座を開催する。	文化生涯学習課	B:おおむね達成	生涯学習センターの講座講座として、高齢者の生きがいや生き方に焦点を当てた内容の無料講座として開催を続けている。 R6:2回	生涯学習センターの講座講座は高齢者を主な対象とする内容のものが多く、無料であること以外にけやき寿学園との違いが見出しにくくなっており、けやき寿学園の位置付けを見直す必要がある。	:やや影響を受けた
基本施策1	だれもが学び合える環境づくり	1-1	学びのきっかけづくり	3	基本施策1	基本施策1	公民館講座	市内11か所の文化センター内にある公民館で教養講座、趣味実用講座、料理講座などのほかに、親子映画鑑賞会を開催する。また、全市のには、憲法講演会及び家庭教育学級を実施する。	市民のニーズに合わせた講座を実施する。また、家庭教育支援の一環として親子のふれあいの場を提供していく。地区公民館講座60事業以上を目標とする。	文化生涯学習課	C:一部達成できなかった	コロナ禍で講座数が減った後、講座数は回復しているが、地区公民館講座や全市民的家庭教育学級の講座数は減少傾向にある。 R6:52事業	テーマや対象者が同じような設定になりやすく、多様な市民のニーズを反映した講座にするためには、企画力の向上が求められる。	:やや影響を受けた
基本施策1	だれもが学び合える環境づくり	1-1	学びのきっかけづくり	3	基本施策1	基本施策1	公民館講座	市内11か所の文化センター内にある公民館で教養講座、趣味実用講座、料理講座などのほかに、親子映画鑑賞会を開催する。また、全市的には、憲法講演会及び家庭教育学級を実施する。	市民のニーズに合わせた講座を実施する。また、家庭教育支援の一環として親子のふれあいの場を提供していく。地区公民館講座60事業以上を目標とする。	地域コミュニティ課	C:一部達成できなかった	令和6年度の地区公民館講座の事業実施数は52講座で前年度の事業実施数71講座に対して事業実施数は19講座減少した(実施回数は80回で前年度数を維持)。これは前年度実施したLINE講座を引き続き実施する計画でしたが講師謝礼等の関係で実施できなかったもの。	地区公民館講座の予算額が毎年、削減されていく中で引き続き実施事業数を維持することは困難であることから、講座内容や実施形態の見直しが必要である。	:やや影響を受けた
基本施策1	だれもが学び合える環境づくり	1-1	学びのきっかけづくり	3	基本施策1	基本施策1	公民館講座	市内11か所の文化センター内にある公民館で教養講座、趣味実用講座、料理講座などのほかに、親子映画鑑賞会を開催する。また、全市的には、憲法講演会及び家庭教育学級を実施する。	市民のニーズに合わせた講座を実施する。また、家庭教育支援の一環として親子のふれあいの場を提供していく。地区公民館講座60事業以上を目標とする。	多様性社会推進課	B:おおむね達成	令和4年度以降、主に性的マイノリティや夫婦別姓等の人権課題に関連したテーマを設定し、憲法講演会を実施してきた。	内容が専門的で初學者には難しく、参加者数が伸び悩んでいる。	:やや影響を受けた
基本施策1	だれもが学び合える環境づくり	1-1	学びのきっかけづくり	1	基本施策1	基本施策1	生涯学習センター講座	市民の学習ニーズに合った、様々な講座を実施する。	生涯学習センターで活動している市民団体や生涯学習サポーターを講師として講座を開催し、市民協働を図る。	文化生涯学習課	B:おおむね達成	生涯学習サポーターも含め多様な講師により講座を開催しているが、生涯学習センターで活動している市民団体を講師とした講座を開催することはできなかった。	市民の学習ニーズを的確に把握するとともに、それにふさわしい講師を市民や市民団体の中から起用できるよう、講師活動ができる多様な人材を確保する。	:やや影響を受けた
基本施策1	だれもが学び合える環境づくり	1-2	時代に対応した学びの機会づくり	21	基本施策2	-	ふちゅうカレッジ100単位	対象となる学習講座を受講し、100単位を修得された方に生涯学習士の称号と修了証を授与する。	地域社会に学びを還元することを目的としているため、「学び返し」につながるよう市民の知識や経験の機会の確保に努める。	文化生涯学習課	D:課題が多く達成できなかった	100単位の修得認定の申請は、ほぼない状況にある。 R6:0人	制度発足時と比べて参加者は大幅に減少しており、制度の役割はほぼ終えていると感じる。生涯学習に参加する意欲の喚起につながる新たな制度の検討を必要とする。	:やや影響を受けた
基本施策1	だれもが学び合える環境づくり	1-2	時代に対応した学びの機会づくり	4	基本施策1	基本施策1	ふちゅうカレッジ出前講座	市民のリクエストに応じて市職員が講師となり、市政の様々なテーマについて講義する。	市民の多様なリクエストに応じられるよう講座を開催し、市民の教養の向上に努めていく。実施件数40件、参加者1300人を目標とする。	文化生涯学習課	C:一部達成できなかった	コロナ禍で講座数が減った後、講座数は回復しているが、目標は達成していない。 R6:27件、530人	各課からの提案により多様な講座を開設しているが、リクエストは特定のテーマに集中する傾向があり、学習会を行う幅広い市民の関心にあつたテーマの設定や制度の周知が求められる。	:やや影響を受けた
基本施策1	だれもが学び合える環境づくり	1-2	時代に対応した学びの機会づくり	9	基本施策1	-	知的障害者学級(あすなろ学級)	18歳以上の知的障害者を対象に月2回程度開催し、障害者の学習、スポーツの機会を確保する。また、この事業に参加するボランティアの育成、活用を図る。	軽スポーツやボランティア活動、調理実習等の活動を通して障害者の自立を目指す。また、ボランティアが企画する事業も取り入れ、市民協働で実施する。年15回以上の開催を目標とする。	文化生涯学習課	A:達成できた	コロナによる活動回数の減少時に活動内容の一部見直しを行った。工作教室などの全体活動、ボランティアスタッフが企画するコース別活動など多彩な内容で実施している。 R6:17回	活動が毎年同じような内容になりがちであり、毎回のプログラムの工夫が必要であるほか、繰り返しの参加者が多いことから、対象者を広げたり、仲間同士だけの活動ではなく、地域社会との関わりを重視した運営が求められる。	:やや影響を受けた
基本施策1	だれもが学び合える環境づくり	1-2	時代に対応した学びの機会づくり	8	基本施策1	-	全市民的家庭教育学級	家庭教育を支援するため、保護者などに対する学習の機会を提供する。主に幼児を持つ保護者を対象に、託児を付けた講座を実施する。	託児室も設置し、子育て中の保護者が参加しやすい講座を目指し、毎年4回の実施を目標とする。	文化生涯学習課	C:一部達成できなかった	コロナ禍で講座数が減った後、講座数は増えておらず、目標は達成していない。 R6:2回	子育てや育児に関する学習機会は他にも増えているが、保護者に対する家庭教育という観点で行う家庭教育学級の意義に基づいた企画が求められる。	:やや影響を受けた
基本施策1	だれもが学び合える環境づくり	1-3	だれもが学びやすい環境づくり	37	基本施策3	-	放課後子ども教室	子どもたちの安全で健やかな居場所づくりを推進するため、放課後などに小学校施設を活用した、遊びの場・学びの場を提供する。	市立小学校22校で実施する。	児童青少年課	B:おおむね達成	市立小学校22校で実施している。	学童クラブとの連携を図りながら、今後も放課後の児童の安全で安心な居場所の確保を行う。	:大きく影響を受けた
基本施策1	だれもが学び合える環境づくり	1-3	だれもが学びやすい環境づくり	36	基本施策3	-	児童館の充実	乳幼児を育児中の保護者が利用しやすいように、キッズスペースを設置し、一層の活用を図る。	児童館の利用活性化を図るため、比較的午前中の利用が多い未就学児の利便性を考えるとともに、多くの小学生参加が見込まれるサークルの活動については、子供たちのニーズに合った企画・実施を心掛けていく。	地域コミュニティ課	B:おおむね達成	キッズスペースの安全安心な運営に努めるとともに、図書館のおはなし会をキッズルームで行うなど他課と連携しての利用促進も行った。児童館サークルの活動については、例年の参加申込数や子ども達への関わりなどによりニーズを把握し、内容をより充実させていくよう努めた。	児童館サークルについては、コロナによる活動休止期間の後、参加人数が全体的に減少傾向にあるため、各センターにて広報活動等を行い、活動を盛り上げるよう工夫する必要がある。	:大きく影響を受けた
基本施策1	だれもが学び合える環境づくり	1-3	だれもが学びやすい環境づくり	35	基本施策3	-	生涯学習センターの託児室の開放	学習を目的に託児を必要とする団体(サークル)に託児室を無料で提供する。	託児を必要とする団体への周知・情報提供を図り、生涯学習センター内施設を利用する際に、託児を必要とする団体が託児室を併用利用する場合、託児室を無料で提供する。	文化生涯学習課	B:おおむね達成	生涯学習センターの保育室を託児室として使用して他の研修室等を利用する場合は無料で提供したが、利用は少ない。	託児を必要とする団体への周知・情報提供ができていない。生涯学習センターの子育て中の世代へのサービスについて積極的な広報が求められる。	:やや影響を受けた
基本施策1	だれもが学び合える環境づくり	1-3	だれもが学びやすい環境づくり	11	基本施策1	-	国際交流サロン運営事業	市民と在住外国人との交流の場の提供や、日本語勉強会を開催し、世界の様々な国の人たちが集まって情報を交換できるよう実施する。	日本語学習や文化交流活動に参加できるボランティアの確保と多文化共生への理解を深められる企画の実施を目指す。	多様性社会推進課	A:達成できた	令和5年度より、府中駅北2庁舎から男女共同参加センター「フューラル」に場所が移り、週5回日本語学習会を実施している。新型コロナウイルス感染症拡大防止のために中止していたサロンのつづきを、令和6年度に再開することができ、学習者とボランティアの交流を図ることができた。	日本語学習会への参加希望者が増えているが、指導役ボランティアの人数の兼ね合い等により、新たな参加者の受入れが難しい学習会がある。	:大きく影響を受けた

事業並び替え表

(現計画)旧体系等

(参考)達成状況調査結果

資料6

基本施策	基本施策1	具体的施策	具体的施策1	旧No.	旧初出	旧再掲	旧事業名	旧事業内容	旧計画期間中の取組内容	担当課	(参考)達成状況自己評価	(参考)達成状況現状	(参考)達成状況課題	(参考)達成状況コロナの影響
基本施策1	だれもが学び合える環境づくり	1-3	だれもが学びやすい環境づくり	2	基本施策1	基本施策1	生涯学習センタースポーツ施設	体育室の一般開放では、誰でも利用しやすい環境を提供する。その他水泳教室などを開催し、技術面でもサポートする。	卓球、バドミントンなどが気軽にできる場や多種多様なトレーニング器具を提供する。水泳技術と健康増進運動を図るため、障害者専用コース、ワンポイントレッスンなどを実施する。	文化生涯学習課	B:おおむね達成	体育室の一般開放では卓球、バドミントン、バスケットボールなど様々な種目ができる。トレーニング室は多様なマシンを提供している。幼児・小学生向けの水泳教室は盛況であるが、障害者専用コースやワンポイントレッスンは実施できなかった。	市民のスポーツの多様なニーズに対応できる運営、教室等の充実が求められる。施設規模の制約があることから、利用者の増加がサービスの低下につながるよう、利用の安全性を確保することも必要である。	×:やや影響を受けた
基本施策1	だれもが学び合える環境づくり	1-4	学びの情報共有の仕組みづくり	33	基本施策3	-	生涯学習情報誌の発行	生涯学習ボランティアの編集で、市民の学習活動状況や生涯学習センターでのイベントを取り上げ「生涯学習だより」を発行する。今月のテーマ、定期講座、今月のおすすめの本など情報を掲載し、生涯学習センターの情報を提供する「生涯学習センター通信」を発行する。	生涯学習ボランティア編集による「生涯学習だより」について、指定管理との協働により発行する。年4回の発行を目指す。「生涯学習センター通信」を毎月発行する。	文化生涯学習課	C:一部達成できなかった	「生涯学習だより」については、年4回生涯学習ボランティアと市と生涯学習センター指定管理者で共同発行した。「生涯学習センター通信」は発行していない。	紙媒体と合わせて電子的媒体での発信強化が必要である。	×:影響を受けなかった
基本施策1	だれもが学び合える環境づくり	1-4	学びの情報共有の仕組みづくり	31	基本施策3	-	外国語版情報誌(府中インフォライン)の発行	在住外国人向けに催し案内や生活上の情報を盛り込んだ冊子(英・中・韓文併記)を発行する。	定期的な発行を継続し、在住外国人への効果的な情報発信を目指す。	多様性社会推進課	B:おおむね達成	残部調査の結果、府中インフォラインは在住外国人の手に十分に渡っていないことが判明したため、令和4年度の発行を最後に廃止し、以降、各課の発行物の多言語翻訳(英・中・韓)を行っている。	各課が作成する手続案内等には、まだ日本語のみでしか作成されていないものがあるため、引き続き、各課からの依頼に基づき多言語翻訳を進めていく。	×:影響を受けなかった
基本施策1	だれもが学び合える環境づくり	1-4	学びの情報共有の仕組みづくり	30	基本施策3	-	インターネットホームページ情報提供	市のホームページに積極的に生涯学習情報の掲載を行い、市民が必要な情報を入手できるようにサービスの向上を図る。	市のホームページを充実させ、市の生涯学習に関する情報を市からの情報発信により取得している市民の割合が90.0%以上となることを目指す。	文化生涯学習課	B:おおむね達成	生涯学習センターのホームページや「ふちゅう生涯学習情報局」などの生涯学習センター指定管理者が開設するウェブサイトは開設数も内容も充実する傾向にあり、市のホームページを含め、インターネットで情報を取得する市民は増えている。	市のホームページと生涯学習センター指定管理者が開設するウェブサイトの更なる情報の充実と利便性の向上、SNSでの積極的な発信などが課題である。	×:影響を受けなかった
基本施策1	だれもが学び合える環境づくり	1-4	学びの情報共有の仕組みづくり	29	基本施策3	基本施策3	広報媒体を活用した生涯学習のPR	各主管課の依頼に基づいて生涯学習関連事業を広報ふちゅうなどを通じて、市民に知らせる。	各主管課の依頼に基づいて広報ふちゅうなどに生涯学習関連事業の内容を掲載する。	秘書広報課	A:達成できた	各主管課からの依頼に基づき、生涯学習に関連するお知らせを、適切な時期に広報ふちゅうや市のホームページ、SNSなどで市民に周知している。	今後も継続して各媒体での情報発信に努める。	×:影響を受けなかった
基本施策1	だれもが学び合える環境づくり	1-4	学びの情報共有の仕組みづくり	5	基本施策1	基本施策3	生涯学習サポート事業	生涯学習に関する様々な情報の提供、相談、紹介、支援・調整に関する体制を整備する。	生涯学習ファシリテーターの活用を図った体制の整備を目指す。	文化生涯学習課	C:一部達成できなかった	生涯学習センターにおいて生涯学習相談窓口を開設し、生涯学習ファシリテーターの活用にも取り組んだが、生涯学習センター指定管理者の運営方針の変化もあり、現在生涯学習ファシリテーターは活用されていない。	インターネットで生涯学習に関する情報を取得しやすくなり、窓口での生涯学習サポートの内容が、単なる情報の提供から相談・紹介・支援・調整が重要になっており、常時相談に応じることのできる人材の確保が求められる。	×:やや影響を受けた
基本施策2	学びを伝え広げつながりづくり	2-1	学びを支えつなげる人づくり	15	基本施策2	基本施策2	生涯学習ファシリテーターの養成	地域における生涯学習活動の事業企画・運営、また、情報提供や相談に応じるなど、市民の学習活動に対し、支援を行う生涯学習ファシリテーターを養成する。	生涯学習ファシリテーター養成講座を段階ごとに分けて実施する。修了者には地域での活動を促すことで、「学び返し」を実践できるよう支援する。	文化生涯学習課	B:おおむね達成	生涯学習ファシリテーターを養成するための講座を実施し、毎年修了生を輩出している。段階ごとの講座実施はできなかったが、大学と連携して生涯学習の専門家を講師に依頼し、1回で3~4日程度の講座として実施している。	生涯学習センターでは、生涯学習ファシリテーターによる市民企画講座、学び直し実践スクールに取り組んでいる。地域での活動についての支援の仕組みはできておらず、生涯学習ファシリテーターの活動の場を広げる工夫が求められる。	×:影響を受けなかった
基本施策2	学びを伝え広げつながりづくり	2-1	学びを支えつなげる人づくり	16	基本施策2	基本施策2	生涯学習サポーター養成講座	資格や技能を持ち、登録を検討している市民を対象に、より優れた講師を育成するため養成講座を実施する。	生涯学習サポーターの指導力向上を図り、より円滑な「学び直し」を実現する。年間修了者数20人を目指す。	文化生涯学習課	B:おおむね達成	生涯学習サポーターと生涯学習サポーターを養成する講座は、生涯学習ファシリテーター・サポーター養成講座として統合して実施しており、毎年20人前後の修了者を輩出している。R6:17人	生涯学習センターでの市民企画講座の講師を希望する講座修了生は多いが、生涯学習サポーターへの登録にはあまり結びついていないため、生涯学習サポーターの登録につなげる工夫が必要である。	×:影響を受けなかった
基本施策2	学びを伝え広げつながりづくり	2-1	学びを支えつなげる人づくり	17	基本施策2	基本施策2	生涯学習ボランティアの養成講座	「学び直し」の一環として、生涯学習ボランティア養成講座を開催する。	指定管理者と生涯学習ボランティアの協働により、「学び直し」と市民協働を目指し、年間20講座程度の開催を目標とする。	文化生涯学習課	B:おおむね達成	生涯学習ボランティア入門講座、生涯学習ファシリテーター・サポーター養成講座を毎年各1回開催している。	生涯学習ボランティア団体への登録にはあまり結びついていないため、講座修了後の活動について考える必要がある。	×:影響を受けなかった
基本施策2	学びを伝え広げつながりづくり	2-1	学びを支えつなげる人づくり	18	基本施策2	基本施策2	生涯学習ボランティアの活用事業	講座の企画運営、講師など生涯学習ボランティアを活用する。	指定管理者と生涯学習ボランティアの協働により、「学び直し」と市民協働を目指し、年間20講座程度の開催を目標とする。	文化生涯学習課	B:おおむね達成	生涯学習ボランティア「悠学の会」企画による運携講座、「悠学の会」講師によるパソコン講座、映像講座、陶芸ボランティアによる陶芸講座等を開催している。R6:15講座	パソコンなどの生涯学習ボランティアを講師とした講座は安定したニーズを支えられているが、特定の技能を持つ生涯学習ボランティアの確保が必要であり、ボランティア登録者の増員が求められる。	×:やや影響を受けた
基本施策2	学びを伝え広げつながりづくり	2-1	学びを支えつなげる人づくり	22	基本施策2	-	ジュニアリーダー講習会	小学4年生から高校生までを対象に野外活動を通して、地域のリーダー養成を図るため、キャンプ訓練や宿泊講習会などを実施する。	青少年が自然体験や社会体験を重ねる中で、異年齢層との交流を通じ、他者への思いやりやたくましさ身に付けるとともに、地域で活躍するリーダーを養成する。	児童青少年課	B:おおむね達成	コロナ禍では一部の講習会の実施だったが、令和4年度から計画どおり講習会を実施している(令和4年度も一部コロナウィルスのため、講習会を中止)。	ジュニアリーダー講習会を実施できる新たな青少年委員の育成が必要とされる。	×:大きく影響を受けた
基本施策2	学びを伝え広げつながりづくり	2-1	学びを支えつなげる人づくり	23	基本施策2	-	コムスポ協力者の育成	これまであまりスポーツになじみのなかった市民に、スポーツの楽しさを伝え、継続的な活動ができるように指導できる人材(府中コムスポの協力者)を育成する。	コムスポ協力者の資質向上のため、研修会を実施する。府中コムスポ協力者研修会1回	スポーツタウン推進課	B:おおむね達成	府中市ポッチャ大会に向け、スポーツ推進委員会内部研修会(兼)府中コムスポ協力者研修会を実施した。	対象者の固定化やコムスポ協力者の高齢化等により参加率が向上していない。	×:影響を受けなかった
基本施策2	学びを伝え広げつながりづくり	2-1	学びを支えつなげる人づくり	24	基本施策2	-	お話ボランティア養成講座	図書館や地域で絵本の読み聞かせを行うボランティアの資質向上を図るため、講座を実施する。	図書館のおはなしボランティアを対象にした「ステップアップ講座」を継続して実施し、ボランティアの人材育成と能力向上につなげる。また、市民対象の「読み聞かせ講習会」を毎年実施し、絵本の読み聞かせやストーリーテリングなどを地域で行える人材を育成する。	図書館	B:おおむね達成	「ステップアップ講座」と「読み聞かせ講習会」は共に、コロナウイルス感染症の拡大により開催の一部中止もあったが、会場設置を工夫し、参加人数を調整して実施し、令和5年度からは通常開催することができた。「ステップアップ講座」では、子どもの読み聞かせに関する幅広い専門分野から講師を招き、図書館のおはなしボランティアの知識習得や能力向上に寄与することができた。「読み聞かせ講習会」では、令和5年度からロゴフォームによる申込みを開始し、市民が応募しやすい環境整備に努めた。	「ステップアップ講座」については、毎回新しい講師を探すことにハードルがあるため、今後も職員が積極的に外部の研修を受け、講師の候補を探す必要がある。「読み聞かせ講習会」については、様々な目的を持った市民のニーズを同時に満たすことが難しいが、イベントスケジュールの調整や、予算と職員人員には制限があることから、講座の種類増加は現状難しいことが課題である。	×:大きく影響を受けた
基本施策2	学びを伝え広げつながりづくり	2-1	学びを支えつなげる人づくり	25	基本施策2	-	美術館ボランティアの育成	美術館ボランティアとの協働を推進する。NPOと美術館との協働により、研修会や教育普及事業など様々な事業活動の機会を提供し、美術館ボランティアを育成する。	アートスタジオ・ワークショップの補助、公開制作のガイド、市民文化の日などイベントのお手伝い、パブリックアート(彫刻)のメンテナンスなどを実施する。ボランティア活動のきっかけづくりとして、ボランティア説明会を併せて実施する。	美術館	B:おおむね達成	ワークショップ、特に子ども参加者の補助において、ボランティアの力は大きく、美術館事業に欠かせない存在になっている。ボランティア参加者の満足度も高く、繰り返し参加してくれる登録者も多い。	希望者が多い事業においては、ボランティアの活動機会を十分に確保できない場合がある。受け入れ枠を増やしたり、次回以降に優先的に受け入れたりと工夫している。	×:やや影響を受けた
基本施策2	学びを伝え広げつながりづくり	2-1	学びを支えつなげる人づくり	26	基本施策2	-	市民活動団体の活動支援	市民活動センターに登録している団体の活動機会の提供に努めるとともに、地域との交流を図る。	市民・団体が交流できる場を提供し、市民同士のネットワークの構築を目指す。各種イベントなどで団体が活動する機会を提供し、団体活動の活性化を目指す。	協働共創推進課	B:おおむね達成	登録団体に加入する市民、自治会、企業、学校、行政など多様な主体が日々集い、交流できる場と企画の両面を展開し、登録団体の増加と協働の推進につながっている。	まだプラッツを利用したことがない市民や団体、企業等に対して、場と企画の両面の情報発信に注力し、更に市民協働が発展できるようコーディネートに努める。	×:大きく影響を受けた
基本施策2	学びを伝え広げつながりづくり	2-2	学びの成果を広げる仕組みづくり	20	基本施策2	-	市民企画講座	「学び直し」を推進するため、講座の企画を提案・実施する市民、又は市民の団体を募集し、生涯学習センターで開催する。	知識・経験・企画意欲のある市民または市民団体の企画を積極的に採用し、講座の充実を図り、また「学び直し」の実践の場として提供する。年間講座数6~7講座程度を目標とする。	文化生涯学習課	C:一部達成できなかった	生涯学習ファシリテーター養成講座修了生による市民企画講座、学び直し実践スクール等を毎年実施している。それ以外に、市民からの講座の企画提案は受け付けておらず、市民団体からの募集もしていない。R6:3講座	生涯学習センターの講座事業は、指定管理者が行うため、成果の見えにくい市民の企画提案を積極的に取り入れることには難しさがある。現在の生涯学習センターにおいて講座を行うことが市民団体にとって魅力があるとは限らない。	×:影響を受けなかった

事業並び替え表

(現計画)旧体系等

(参考)達成状況調査結果

資料6

基本施策	基本施策1	具体的施策	具体的施策1	旧No.	旧初出	旧再掲	旧事業名	旧事業内容	旧計画期間中の取組内容	担当課	(参考)達成状況自己評価	(参考)達成状況現状	(参考)達成状況課題	(参考)達成状況コロナの影響
基本施策2	学びを伝え広げつながりづくり	2-2	学びの成果を広げる仕組みづくり	19	基本施策2	基本施策2	生涯学習フェスティバル	市民の生涯学習に対する理解を深め、生涯学習活動全体の推進を図る。引き続き、自主的な活動を推進するため、市民による実行委員会形式で開催する。	市、実行委員及び指定管理者の三者による協働事業として実施。来場者数12,000人を目標とする。	文化生涯学習課	A:達成できた	市、実行委員及び指定管理者の三者による協働事業として実施。市民発表会・市民作品展・ワークショップも、市民公募で実施している。来場者数は、コロナ禍で急減したが、ほぼ回復している。R6:10,035人	コロナ禍での縮小から参加者は回復基調にある。高齢者と家族連れの来場が多く、若者など幅広い世代の参加が期待される。コロナ禍で取り組んだオンライン事業はほぼなくなっており、ホームページを活用したインターネットでの情報発信の充実も課題である。	:やや影響を受けた
基本施策2	学びを伝え広げつながりづくり	2-2	学びの成果を広げる仕組みづくり	6	基本施策1	-	府中囃子伝承普及事業	市の伝統芸能である府中囃子を永く後世に残すため、備品の貸与や援助などの支援をする。	府中囃子の伝承普及を府中囃子保存会への委託により継続して実施し、平成29年度に作成した府中囃子(2流派)のCDを活用するなど、市内外へ広く普及に努めていく。	文化生涯学習課	B:おおむね達成	府中囃子保存会に演奏技術伝承事業を委託し、後継者の育成と演奏技術の伝承を図った。また、府中囃子のCDを販売については、オンライン申込みを取り入れ、府中囃子の普及を図った。	府中囃子を保存・継承するに当たって、転入者を含む地域住民の参加意識の醸成が課題となっている。また、更なる知名度向上のため、ふるさと納税の返礼品としてCDを追加するなど、広報手段を広げる必要がある。	:大きく影響を受けた
基本施策2	学びを伝え広げつながりづくり	2-2	学びの成果を広げる仕組みづくり	7	基本施策1	-	武蔵国府太鼓伝承普及事業	市の郷土芸能である武蔵国府太鼓の普及と伝承のため、市民講習会を実施する。	武蔵国府太鼓講習会を武蔵国府太鼓連盟への委託により継続して実施し、平成30年度に作成した武蔵国府太鼓連盟のDVDを活用することで伝承と市内外へ広く普及に努めていく。	文化生涯学習課	B:おおむね達成	武蔵国府太鼓講習会は、府中文化振興財団の自主事業として実施した。また、武蔵国府太鼓のDVDの販売については、オンライン申込みを取り入れ、武蔵国府太鼓の普及を図った。	武蔵国府太鼓の知名度向上が課題であるため、ふるさと納税の返礼品としてDVDを追加するなど、広報手段を広げる必要がある。	:大きく影響を受けた
基本施策2	学びを伝え広げつながりづくり	2-3	府中市学びのネットワークづくり	32	基本施策3	基本施策3	市内生涯学習施設間連絡会議	市内の生涯学習関連施設のイベント情報や市民ニーズの動向など情報交換をする。	生涯学習関連の施設の担当者により、イベントの情報交換などに加えて、「市民文化の日」の企画について協議する。	文化生涯学習課	A:達成できた	府中市(文化スポーツ部文化生涯学習課・ふるさと文化財課・図書館・美術館)、公益財団法人府中文化振興財団、株式会社王設備サービス、ミスJ・KPBグループ、公益財団法人東京都公園協会と八館連絡会を年4回程度開催し、「市民文化の日」の企画内容を検討した。	今後は、市民の生涯学習を推進するための連携関係の構築について検討の余地がある。	x:影響を受けなかった
基本施策2	学びを伝え広げつながりづくり	2-3	府中市学びのネットワークづくり	34	基本施策3	-	大学との連携	東京農工大学、東京外国語大学及び明治大学と連携し、教養セミナーなどを実施して、学習機会の場を提供する。	各大学との連携講座として実施する。各大学と年1回以上の連携講座の実施を目標とする。	文化生涯学習課	B:おおむね達成	東京農工大学及び東京外国語大学との連携講座を実施した。明治大学による生涯学習ファシリテーター養成講座は大学側の申出により終了したが、その後は近隣大学の協力により講座を継続している。	専門的な内容の大学連携講座は参加者が減少している。大学側でも公開講座が一般化しており、市内大学の教員の講義が聴けるというだけでは魅力が少なくなっている。	x:影響を受けなかった
基本施策2	学びを伝え広げつながりづくり	2-3	府中市学びのネットワークづくり	27	基本施策2	-	学校支援ボランティア	地域社会が学校に対して支援していくボランティア活動を行う。	世代を超えたふれあい活動の実施、地域の伝統的な文化や技能の伝承、校庭の整備・花壇の世話などを実施する。	指導室	B:おおむね達成	学校長の裁量により、必要な内容で学校支援ボランティアを活用し、協力を得ることができた。	ボランティア活動を希望する人材と学校が求める支援内容や時期のマッチングに課題がある。	:やや影響を受けた